

11 旧墓地

Bornheimer Straße

旧墓地はもともと都市の外壁の外側に位置し、その歴史は1715年ヨーゼフ・クレメンス侯まで遡ることができますが、彼はこの墓地を一般住民や兵士用に定めました。1787年の選帝侯の条令により初めて、この墓地はボン唯一の教会専用墓地となりました。この墓地で高い木々に囲まれて眠る死者たちは、生前は、最も重要な19世紀ドイツの大学都市に名を連ねるこのボンのブルジョワ社会を代表していた人々です。しかし旧墓地はその有名な名前によってだけでなく、そこにある幾つもの著名なアーティストによって作成された記念碑によってもまたよく知られています。ケーヴェリッヒ生まれのマリア・マグダレーナ・ベートーヴェンはベートーヴェンの母親ですが、その墓は長い間忘れ去られていました。1826年に旧墓地でも最も古い墓所だった彼女の墓は再び売却されましたが、1932年にやっと、ベートーヴェンの母親の墓として認められました。ボンのベートーヴェン・ハウスが、彼女の偉大な息子の手紙からの引用文が彫られた簡素な墓石を寄贈しています。(1970年に修復された)

12 レドウト

Redoute Bad Godesberg, Kurfürstenallee

レドウトは、ボンにある選帝侯時代の最後の建築で、宮廷人たちのための舞踏・遊戯場であり、選帝侯マックス・フランツが彼の湯治場バート・ゴードスベルク振興のために上品な懐古主義調に建てさせたものです。この場所で、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンはヨーゼフ・ハイドンの目前で演奏しています。

13 リッペシェ・パレス

Oberkassel, Königswinterer Straße

選帝侯レジデンス都市ボンの城壁から遠く離れた場所に、貴族によって設けられた避難場所です。後に「リッペシェ別荘」と呼ばれた、このオーバーカッセルにある貴族の所領は先ずケルンの富裕市民マイナーツハーゲンの所有でした。18世紀中ごろに有名なバロック期の建築士ヨハン・コンラッド・シュラウンによって、夏用の邸宅が建てられました。広大な庭園に囲まれたこの施設はもともと領主の館と2つの張り出した直角の側棟からなっていて、更に南側には作業用の庭がありました。ベートーヴェンの時代には、この所領は婚姻によってリッペ伯爵の所有となりました。北翼部の豪華な内装のホールは音楽会に適しています。

:bonn information

Touristische Informationen:

Bonn Information, Windeckstraße 1, 53103 Bonn
Tel.: 0228/77 50 00, Fax: 0228/77 50 77
E-mail: bonninformation@bonn.de

Herausgeber:

Die Oberbürgermeisterin der Bundesstadt Bonn,
Bonn Information/Presseamt.

発行者:

ボン市市長、ボンインフォメーション/広報部
団体Bürger für Beethoven、ラインバッハガラス専門学校、City Parkraum、
そしてボン市ガス・水道供給局職業教育部からの好意的な協力による。
Stand: 03.2006

Rheinische Friedrich-Wilhelms-Universität

ehemals Residenz der Kölner Kurfürsten
Die beiden „Bönnschen Ballstücke“ des Hofmalers François Rousseau zeigen das um 1750 erbaute Hoftheater, heute Hörsaal 17 neben dem Koblenzer Tor. Das kurfürstliche Orchester ist zweigeteilt dargestellt. Hier musizierten schon Ludwig van Beethovens gleichnamiger Großvater, sein Vater Johann und er selbst.

Once Residence of the Prince-Electors of Cologne
The two "Bönnschen Ballstücke" ("Works on a court festivities in Bonn"), painted by court artist François Rousseau depict the court theatre, which was built around 1750, today lecture room 17, next to the Koblenzer Tor. The orchestra of the electoral princes is shown divided into two sections. Beethoven's identically named grandfather, his father Johann and Ludwig himself all worked here as musicians.

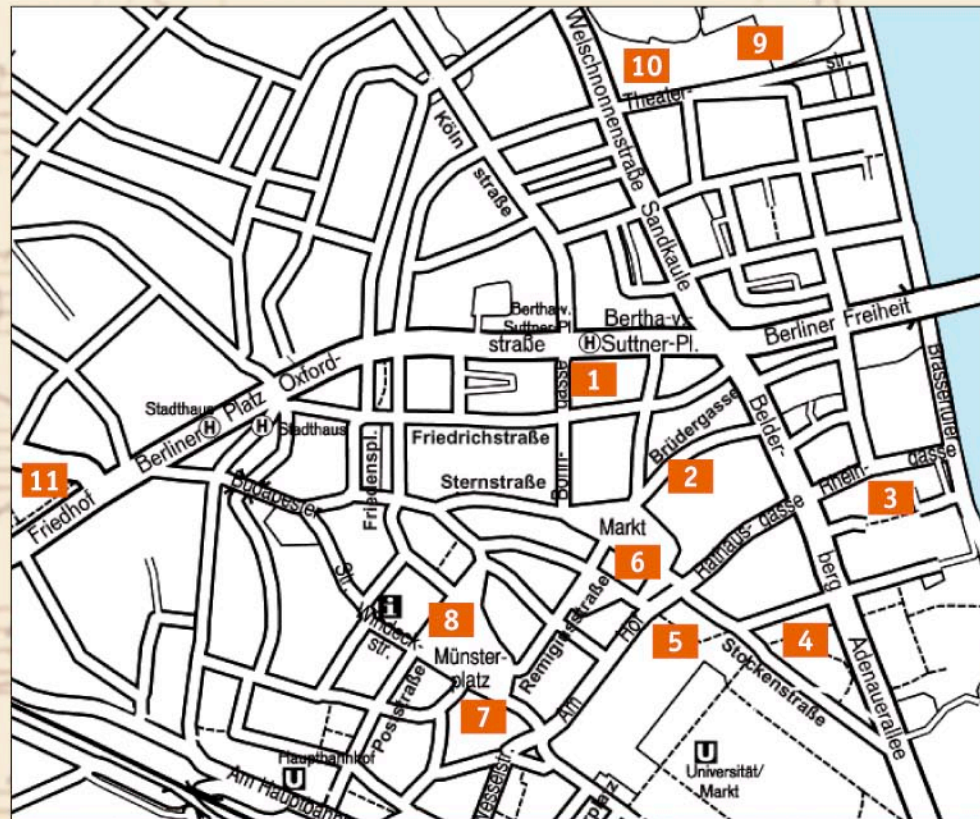


BONN
Die Stadt

「ベートーヴェン史跡めぐり」

略図参照の一例。

Beispiel: Universität



ベートーヴェン 史跡めぐり

ボンに残るベートーヴェンの
足跡を辿って

www.bonn.de

BONN

Die Stadt



ボン市は古代ローマ帝国時代のローマ軍宿营地「カストラ・ボンネシア」を起源とし、16世紀以降は選帝候でもあるケルン大司教の居城所在地でした。その後選帝侯のヨゼフ・クレメンスとクレメンス・アウグストが建てた城館やロココ調の市庁舎、また数多の教会や幾つかの貴族の豪邸がボンという町を特徴付けています。この、人口1万人程のボンという町で、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンは1770年12月16日あるいは17日に生まれました。ここでは、今日人口31万4千人のベートーヴェンの町ボンにある、彼の若い日々の選帝候都市ボンでの足跡を辿っていきます。(12番目のレドウトと13番目のリップペシェ・パレスはボン市中心部から離れた、パート・ゴードスベルクとポイル-オーバーカッセルという地区に位置しています)



1 ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの生家 Bonngasse 20

ボンガッセ20番地にある偉大な作曲家の生家は、バロック時代に典型的なボンのブルジョアの家で、代表的な家屋として通り側に面して建てられたものです。通りとは反対側の庭の方には低めの、かなり細めの棟が続いています。1767年に若いベートーヴェン夫婦がこの庭付きの建物の一階に引っ越して、その家の小さな屋根裏部屋で、彼らの息子であるルートヴィヒは生まれました。ベートーヴェン一家が7年間住んだボンガッセの住宅は、彼らが住んだボンの5つの住宅のうち、一軒だけ保存され残ったものです。

2 聖レミギウス教会 Brüdergasse

聖レミギウス教会はボンでたった一つ残されたゴシック様式の教会で、以前はフランシスコ修道会の修道院教会であり、その建築は1276年に始まり14世紀末に完成しました。この教会は貧乏修道会の厳格な形式が特徴的です。ベートーヴェンはこの修道院教会で10歳の時に早朝ミサのためにパイプオルガンを弾きました。この1748年に作られたパイプオルガンは、ケルンのパイプオルガン職人ルートヴィヒ・ケーニヒの重要な作品で、稀に見る彫刻の多い前面図が特徴です。しかし、第2次世界大戦の時に演奏台も含めて完全に焼失してしまいました。教会の左側廊に据えられた洗礼盤はベートーヴェンが1770年12月17日に洗礼を受けたもので、元は1806年に取り壊された聖レミギウス教会にありました。それまで修道教会だったこの教会の名前である聖レミギウスもそこに由来します。

3 ラインガッセ24番地 Rheingasse 24

ベートーヴェン一家は1776年に、パン職人ゴットフリート・フィッシャーの豪華な切妻造りの家に引っ越しましたが、そこにはルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンと同名の彼の祖が住んでいました。1776年にここでベートーヴェンの弟である、ニコラウス・ヨハンが生まれました。こと後にはヴェンツェルガッセ25番地で若いベートーヴェンは少年時代を過ごしました。一家はこの家に途中2度の中断を挟んで1785年まで住んでいました。

4 ライニシェ・フリードリヒ・ウィルヘルム大学 / 旧ケルン選帝候レジデンス Regina-Pacis-Weg

このレジデンスは選帝候の宮廷生活の中心に位置し、最も選帝候領を表象するものです。壮麗さの開花に最も貢献したのは、ここギャラリー棟にある宮廷劇場で、ここでは演劇やオペラ上演以外にコンサートや舞踏会が催されました。1777年にこの城が大規模な火災で宮廷庭園棟以外焼失してしまった時、ベートーヴェンは7歳になるところでした。

5 シュロスシルヒェ-レジデンス付属教会 An der Schlosskirche

レジデンス礼拝堂は火災の後1779年の再建時に、東棟の現在の場所に移されました。この礼拝堂は宮廷建築士ヨハン・ハインリッヒ・ロートの最後の重要な作品で、その装飾的な形式はルイ16世様式の影響を色濃く受けています。その教会の3辺を囲む2階席は選帝候の部屋から直接行けるようになっていました。二つ目の東棟側の2階席は音楽演奏とオルガン専用でした。そして

このオルガンで若いベートーヴェンは、宮廷オルガン奏者で作曲家のクリスチャン・ゴットロープ・ネーフェの教授を受けました。ここが14歳という若さで正規に雇われた「宮廷オルガン奏者」ベートーヴェンの最初の職場でした。

6 ツェアガルテン Zehrgarten Markt 11/Am Alten Rathaus

マルクト広場にある市庁舎は、細長い広場の突き当たりに丁度良く位置付けられています。選帝候はここに1737年4月24日に自ら礎石を置いています。宮廷建築士ミヒャエル・ルヴェイが作成したこの建築構想もまた、一帯を取り巻く居城建築を手本としていました。特徴的で目を引くのは、市庁舎の豪華な、金箔をかぶせた手すり付きの正面の外階段です。今日写真屋がある市庁舎の斜め前には、当時は飲食店「イム・ツェアガルテン」がありました。その給仕女は宮廷司厨長の未亡人でアンナ・マリア・コッホといい、この飲食店をボンの文学・音楽活動の中心にした人物です。彼女は飲食店の他に本屋も営んでおり、彼女の店にはボンの知識人層が出入りしていました。その未亡人にはバベツェという美しい娘がいて、夜の集まりでは取り巻きの中心になっていましたが、彼女も若いベートーヴェンを崇拝していました。ベートーヴェンがボンを出る時、この飲食店「ツェアガルテン」でのベートーヴェンの友人たちは記念帳を進呈し、そこにはウィーンへの道中の無事と彼の成功を祈る言葉が綴られていました。この時フェルディナンド・ヴァルトシュタイン伯爵が、ベートーヴェンをモーツァルトやハイドンと並ぶ音楽家だと予言的に綴ったことは有名です。その記述の中には、ベートーヴェンが「絶え間のない流れによってモーツァルトの精神をハイドンの手によって受け取った」と書かれています。これはベートーヴェン・ハウス博物館で見ることができま

7 ミュンスター教会堂 / ミュンスター学校 Martinsplatz

ボンのミュンスター教会堂、旧聖カシウスとフロレンティウス司教座教会は、ライン地方の最重要記念建築物の一つに数えられています。その起源は古代後期に遡り、それは同時にキリスト教の芽生えの証でもあります。ローマ時代の墓地の端にある今日の地下聖堂の下で発見された紀元3世紀の死者追悼地-ケラ・メモリアエ-がその基礎となっています。その暫く後にその上に建てられた小さな教会には、テーベのローマ軍団出身のキリスト教殉教兵士だったカシウスとフロレンティウスの名前が付けられています。今日の建物は大部分が11世紀ザリエル王家の「アルトミュンスター」教会の遺物ですが、その特徴的な東側部分は1153年に司教座聖堂首席司祭に任命されたゲーハルト・フォン・アーレの寄与によるものです。彼はまた、ライン地方に唯一残されているローマ時代の遺物である回廊の発起人でもあります。西側2階席にある大きなオルガンは、最初の豪華なバロック様式調度の一つです。若いベートーヴェンも祝いの席で宮廷オルガン奏者としてこのミュンスター教会のオルガンを弾いたことがあります。市庁舎通りにあったロベルツ教師の個人学校を出た後、ベートーヴェンは公共のラテン学校である聖カシ

ウス神学校に通いました。この平凡な男子校はミュンスター回廊の東翼に位置する集会所(今日の司祭館)にありました。

8 プロイニング・ハウス/ベートーヴェン記念建造碑 Münsterplatz

プロイニング・ハウスは、今日では郵便局となっているバロック様式の館であり、ミュンスター広場に、ベートーヴェンの出生地に最初に設置された彼の記念碑の絵画的背景として人々の目を楽しませています。元は教会首席司祭ラーダーマッハーにより居住館として建てられたものですが、1830年にフルステンベルク家の手に渡りました。ベートーヴェン記念碑のデザインはドレスデン出身の彫刻家エルンスト・ユリウス・ヘーネルによるものです。この記念碑のベートーヴェンは真っ直ぐ前を見ており、音楽的な着想を得ている様子を表現しています。台座には4つの音楽の種類-幻想曲、ドラマティックな音楽、交響曲、宗教音楽-が比喩的に表されています。記念碑の礎石には交響曲第9番の初版と荘厳ミサが塗り込まれています。1845年8月22日、ベートーヴェン誕生75年目に遂に3日間の音楽祭とともに記念碑の落成式が行われましたが、それが最初のベートーヴェンフェストとなりました。著名なゲストとして、プロイセン王のフリードリヒ・ウィルヘルム3世とその奥方、イギリスのヴィクトリア女王とその夫アルバートがいましたが、彼らはフルステンベルク館のバルコニーからその音楽祭を楽しみました。今日カウフホーフ百貨店がある辺りは、ケルン大司教のレジデンス火災時に亡くなった、ドイツ騎士修道会の騎士ホーフラート・フォン・プロイニングの家があった場所です。彼の未亡人ヘレネと4人の子供たちは、若くて頑固なベートーヴェンに家族的な安心感を与えていたとされています。

9 ベートーヴェンホール Wachsbleiche

建築家ジークフリート・ヴォルスケの構想による新しいベートーヴェンホール完成を機に、ボン市は1959年9月に世界に名だたる定期的音楽祭の列に名を連ねることになりました。ハウルヒンデミットは自らの作曲「Noblissima visione」によってこのホールの落成を祝っています。今日のベートーヴェンホールはボンで3つ目のもので、最初に建てられたのは1845年、第1回目のベートーヴェン・フェストの祝典のためでした。

10 ベートーヴェン胸像 「バートン」/ ベートーヴェンホールの前

デュッセルドルフ出身のアーティスト、クラウス・カマリッヒは1986年、1819年に描かれたカール・ヨーゼフ・シュティラーの最も有名なベートーヴェン肖像画を元にコンクリートを固めて作った、奇抜な外見のベートーヴェン胸像「バートン」を新しいベートーヴェンホールに贈り、「バートン」はベートーヴェンの町ボンの目印の一つとなっています。